書評

エコツーリストたちの心の叫びが伝わる
「海津ワールド探検ツアー」

海津ゆりえ著**
『日本エコツアー・ガイドブック』
（2007年、岩波書店）

評者：大村日出雄*

近年、エコツアー人気が中高年を中心に盛んになっているという話を新聞紙上で見かけるようになりましたが、実際のエコツアーとはどういうものなのか、エコツアーに携わっている方はどのような考えのもとで活動をされているのかを知るのにまさに打って付けの本に出会ったという感じです。

エコツアーを実現するためにエコツーリズムの理念に基づいて、「地域住民」「観光客」「専門家」「行政」「旅行業者」が関わることで、ただの観光が地域づくりに結びついたり、村おこしにつながった結果として、人が移住することになり村を活性化させることになっていった。又その過程で地域の宝（自然や自然との関わりから生まれた知恵や文化）探しを行い、自然との共有によって逆に人間の方が活かされているのではないかと感じた。

特に心に残ったのは、

西表島　石垣昭子：外の世界に出て見つけたものは、生まれ島の文化だった。

東村　　山城定雄：子供たちの育成のために「セカンドスクール」という新しい取り組みをスタートさせた。農業体験、漁業体験、自然体験を通じて子供たちの生きる力を養おうというプログラムだ。

阿蘇　　坂元英俊：外から来た人が、地元の人たちに景観の素晴らしさについて、思うことを口に出して言ってもらうことが、地域の人を変える力になる。地元の人の口から「阿蘇のここが好きだ」と具体的に語ること、それが最大の宣伝効果よ。だからこそゆっくり過ごしてもらうことがたいせつなわけ」

熊野古道　橋川史宏：むしろソフトに投資して、開発を伴わない観光をやったほうがいいというのが彼の主張だった。

二戸　小保内敏幸：何でも金に換算する習慣が身についた自治体が数多く生まれ、地域の資産に手をつけたところはのちに痛い目にあった。本来の地域おこしとは、自律の底力を足下に見出していくこと。等々。

なんと言う力強い言葉だろう。心の底から出てきた叫びともいうべき言葉には、真のエコツーリストとして、いかにもエネルギッシュでエコツーリズムの考え方（経験が生んだたくさんの「思い」、地域への深い愛情と誇り、地域や地球の未来についての危機感、資源の保全や継承への使命感、生き甲斐、各地で活躍する仲間や、彼らに続こうとする者に対して共感と期待、目的は金銭とは別の所にあり、経済はその先に結果としてついてくるもの）を実践し、使命にしている方々ばかりです。「継続は力なり、誰がなんと言おうと絶対に必要な活動だ」と私もこの本を読み進んだ中でそのように思っています。

その活動の一助として自治体や全国に存在する商工会議所（商工会）、青年会議所等の方々を交

＊大村紙業株式会社代表取締役社長、茅ケ崎商工会議所名誉会頭、茅ケ崎市観光協会会長、茅ケ崎青年会議所シニアクラブ会長、学校法人文教大学学園前理事
＊＊文教大学国際学部准教授

えて総合的にエコツーリストを育てていくことやそれぞれの市町村にある観光協会が親善大使の役目を果たし、観光外交官となってエコツーリズムの理念に基づいて協力することも可能だろう。そうした地道な活動から文化が育み、文明が生まれ、それを代々後世に伝えていくことこそ究極のエコツーリズムではないでしょうか。
この本の一つ一つの章の最後にフィールドガイドを設けたことでその土地、土地の特徴がわかり、またエピソード的な内容も盛り込まれていますのでより親しみもわく内容になっていると感じました。まだ読まれていない方は是非「海津ワールド探検ツアー」へお出かけになってください。
最後に、海津先生がここに紹介できなかったエコツーリストたちを取り上げて第２、第３版と増版されることを心よりお祈りいたしております。